

UR賃貸住宅の事業メッセージ

令和7年11月

独立行政法人都市再生機構



日本住宅公団（UR都市機構の前身）設立から70年

現在、UR都市機構は、四大都市圏を中心に約1,400団地 約70万戸のUR賃貸住宅を管理しています。

1955»

日本住宅公団

戦後の住宅不足
住宅の
大量供給

70年

住宅施策の転換
量から質へ

»2025»

UR都市機構

環境意識の高まり
ストック
再生・活用

70年間で継承されてきた価値



ゆるやかな空間



人と人とのつながり

UR賃貸住宅の事業メッセージ（2025年7月1日発表）

ゆるやかに、くらしつながる。

UR賃貸住宅は、1955年に歩みを始めてから今日まで、
公的機関としての使命のもと、いつの時代もその時々社会課題に対して、
人々が安心して暮らせる住まいのあり方を提案してきました。

いま、時代は少子高齢化や地域社会の活性化、
ライフスタイルの多様化への対応など、さまざまな課題を抱えています。
これらを乗り越えていくために、わたしたちは考えることをやめません。

回地にひろがる緑豊かな空間の新しい活用法はないだろうか。
人が集まって暮らすことを、もっと大きなチカラに変えられないだろうか。
多様な人々がみな笑顔になれる、くらしづくりができないだろうか。
地域とともに、新しいまちづくりができないだろうか。

ゆるやかなつながりの中で、
だれもが安心して、自分らしく毎日を過ごせる居場所となるように。
そして、そんなくらしが未来へとつながるように。
わたしたちは住む人に寄り添いながら、
常にその時代にふさわしいくらしを考え、
提案し、実現していきます。



団地にひろがる緑豊かな空間の新しい活用法はないだろうか。

全国の団地の樹木（高木）の数は、約40万本。
1団地あたり約300本あります。
広いオープンスペースと合わせ、UR賃貸住宅が
公園の中の住まいのようだとされる所以です。

上の写真のように、URの建替えでは、建替え前か
らある樹木を保存し、地域の人憩いの場にもなる
緑のネットワークを形成しています。

愛知県・江南団地にある自然林は、「団地の森」と
も呼ばれています。ここでは、お住まいの方と管理
や活用方針のワークショップを重ねてきました。
地域の子どもたちとは、江南市とも協働して「どん
ぐり教室」を開催し、身近な緑の豊かさを知って
もらっています。

これからも、ミドリのチカラを介して、人と人のく
らしがつながる環境をつくっていきます。

みどりのチカラで、くらしがつながる。



人が集まって暮らすことを、もっと大きなチカラに変えられないだろうか。

現在、UR賃貸住宅にお住まいの方は、約120万人。日本の全人口の100人に一人に当たります。

多くの方が集まって暮らしているからこそ、団地ではゆったりとしたオープンスペース・共用空間を得ることができます。

1人だけ・1世帯だけでは実現できないこと、不安だと思えることが、少しずつ補いあうこと、助け合うことで大きなチカラが生まれ、それが大きな安全・安心につながると考えています。

町田山崎団地では、10年前からURの若手職員の発意で、自治会、商店街、町田市、大学や様々な企業と連携し、防災をテーマにイベントを実施しています。

防災に関する様々な体験を通じて、一緒に「災害への備え」に思いを馳せています。

防災に関する取組みは、全国の団地でも実施しています。

みんながいて、くらしがつながる。



多様な人々がみな笑顔になれるくらしづくりができないだろうか。

団地には、オープンスペース、集会室、商店街といった、コミュニティを育む「土壌」、「場」があります。

ただ、それはあくまでも土壌であって、コミュニティを育み、人を笑顔にするのは人です。

団地の商店街にも、人とのつながりのきっかけ作り、居場所づくりに取り組む人たちがいます。

関西エリアでは、団地の共用空間を舞台に、地域にも開かれた新しい交流の機会をつくることのできないか、そんな思いから「DANCHIつながる一む」というイベントをスタートしました。

子どもたちの様々な体験、子育てを頑張る親御さんの支援の場です。

全国の団地でも様々な取り組みを行っています。

人の笑顔が人の笑顔を生み、くらしがつながっていくことを目指していきます。

笑顔と笑顔で、くらしがつながる。



地域とともに、新しいまちづくりができないだろうか。

団地再生で新たに生まれ変わった住戸は10万戸。まちの記憶を承継しつつ、団地を地域に開くように、時代の変化に応じて、地域に必要な新たな機能を導入し、地域の価値も高めています。

建替え前の広場空間を継承し、パブリックな場所をデザインすることで、その場所を媒介に、世代を超えた地域のつながりが自然と生まれています。

また、URでは、住戸内だけでなく、商店街や集会所等共用部のリノベーションにも積極的に取り組んでいます。

様々なプレーヤーが活躍する場となるよう、団地を開き、多数の企業ともコラボしています。

今後も、地域と共に「人と人の縁をつなぐ」まちづくりを実践し、くらしがつながっていくことを目指していきます。

団地を開き、くらしがつながる。



— ゆるやかに、くらしつながる。 —

